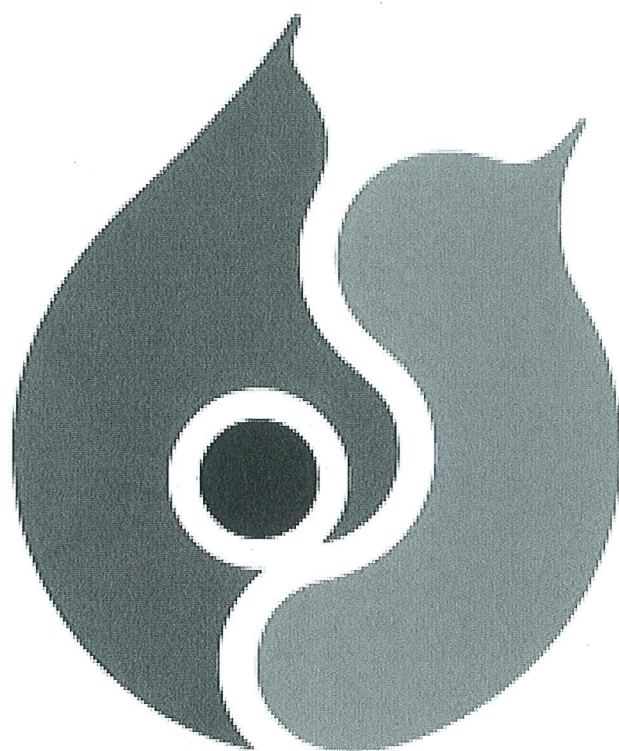


東北町学校施設の個別施設計画



令和 2 年 3 月

東北町教育委員会 学務課

【目 次】

1	背景・目的	
1-1	背景.....	1
1-2	目的.....	1
1-3	計画期間.....	2
1-4	対象施設.....	2
2	学校施設の目指すべき姿	
2-1	確かな学力の育成ときめ細かな指導を実践する教育環境の整備（学習空間の充実）.....	3
2-2	豊かな心と健やかな体を育成する安全な施設環境の実現（生活空間の充実）.....	3
2-3	地域と共に歩む拠点としての施設整備（地域との連携の充実）.....	3
3	学校施設の実態	
3-1	学校施設の配置状況.....	4
3-2	児童生徒数及び学級数の推移.....	5
3-3	学校施設の保有量.....	10
3-4	今後の維持・更新コスト（従来型）.....	11
3-5	学校施設の老朽化状況の実態.....	12
4	学校施設整備の基本的な方針等	
4-1	学校施設の規模・配置計画等の方針.....	16
4-2	改修等の基本的な方針.....	16
4-3	基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等.....	18
5	長寿命化等の実施計画	
5-1	詳細診断の優先順位付けと実施計画.....	19
5-2	長寿命化のコストの見通し、長寿命化の効果.....	19
6	長寿命化等の継続的運用方針	
6-1	情報基盤の整備と活用.....	19
6-2	推進体制等の整備.....	19
6-3	フォローアップ.....	19

1 背景・目的

1-1 背景

東北町の学校施設は、昭和40年代から50年代にかけて、老朽化した木造校舎を鉄筋コンクリート造校舎（防音校舎）へ改築（建て替え）してきた。平成17年の2町合併時には、それぞれの町で整備した小・中学校を現状のまま引き継いでいる。昭和56年以前に建築された旧耐震基準の学校施設については、耐震診断と必要に応じて耐力度調査を行い、大地震時（震度6強想定）に倒壊または崩壊する危険性が高いとされた建物及び規定の耐力度点数未満の建物については改築し、平成30年度までに耐震化を完了させている。昭和40年代に建設された上北小学校及び上北中学校は、経年劣化による老朽化が著しかったことから、大規模改修及び防音機能復旧工事を令和元年度までに完了させ、学校施設の老朽化対策も完了している。

学校施設は、未来を担う子供たちが集い、生き生きと学び、生活をする場であるとともに、地域住民にとっては生涯にわたる学習、文化、スポーツなどの活動の場であり、また、災害時には避難所としての役割も果たす重要な施設である。

当町の財政状況は、歳出面では社会福祉関連分野が増加し、歳入面では地方交付税が合併算定替えによる削減や生産年齢人口の減少による税収減により、一層厳しいものとなることが予想されている。

また、児童数の減少から複式での学級編成となるなどしてきたことから、平成27年度には、東北地区の2中学校を東北中学校へ、平成30年度には、上北地区の3小学校を上北小学校に、平成31年には、東北地区の3小学校を東北小学校に統廃合を行い、学校施設の適正配置を図っている。

文部科学省の資料によると、学校施設はこれまで平均築42年¹で建替えられてきたが、今後はこれを長寿命化しつつ、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減及び予算の平準化を図り、学校施設に求められる機能を確保することが求められている。

また、学校施設の整備にあたっては、単に劣化した建築物や設備を竣工時の状態に戻すだけでなく、その機能や性能を現在求められている水準まで引き上げ、安心・安全な施設環境の確保、教育環境の質的向上、地域コミュニティの拠点形成を目指して再生を行うことも求められている。

1-2 目的

「東北町学校施設の個別施設計画（以下「本計画」という。）」は、上記の背景を踏まえて学校施設を総合的観点で捉え、長寿命化できるものは長寿命化し、適正に改修・建替えするとともに、教育環境の質的改善も考慮しながら改修・建替え等を検討するための詳細診断の優先順位を設定しつつ、これに要するコストの縮減と平準化を図ることを目的として策定する。

なお、本計画は東北町公共施設等総合管理計画（平成29年3月）に基づく学校施設の個別施設計画として位置づけるとともに、施設整備計画²は本計画に基づき策定していくこととする。

1-3 計画期間

概ね40年間とする。ただし、この期間内でも児童生徒数の変化、社会経済情勢、国の補助制度などの動向により、柔軟に計画を見直すこととする。

1-4 対象施設

本計画において学校施設の実態を把握するために調査及び評価を行う施設は、町が保有する学校施設（小学校、中学校）とし、学校施設内にある倉庫、部室、屋外トイレなどの小規模な建物は対象外とします。

表1-1 対象施設

■小学校

単位：棟・㎡

No	名 称	校 舎		屋内運動場	
		棟数	延べ床面積	棟数	延べ床面積
1	上北小学校	6	4, 294	3	953
2	甲地小学校	1	2, 433	2	882
3	東北小学校	3	4, 843	2	1, 084
合 計		10	11, 570	7	2, 919

■中学校

単位：棟・㎡

No	名 称	校 舎		屋内運動場	
		棟数	延べ床面積	棟数	延べ床面積
1	上北中学校	5	3, 967	4	1, 382
2	東北中学校	1	4, 077	2	1, 373
合 計		6	8, 044	6	2, 755

1 鉄筋コンクリート造の施設の建替えまでの平均年数は約42年であり、近年、建替えまでの年数が延びる傾向にある（文部科学省：学校施設の老朽化対策について～学校施設における長寿命化の推進～ 平成25年3月）

http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2013/03/18/1131926_06_1.pdf から抜粋

2 「文部科学省では、学校施設環境改善交付金の交付を受けようとする地方公共団体に対して施設整備計画の提出を義務付けている。この施設整備計画は、緊急の課題を迅速に進めていく観点から計画期間を3年以内としている。」（文部科学省：学校施設の長寿命化計画策定に係る手引 平成27年4月）から抜粋

2 学校施設の目指すべき姿

2-1 確かな学力の育成ときめ細かな指導を実践する教育環境の整備(学習空間の充実)

個に応じたきめ細かな指導の充実を図り、児童・生徒に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるため、担任、学校教育支援員等による少人数授業やチームティーチングなど、多様な学習展開に対応する施設整備を進める。

また、グローバル社会に対応した教育の推進(英語力、コミュニケーション力等の育成)やICTを活用した授業の推進のための環境を整備する。

さらに、児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じ、必要な支援を行う特別支援教育に対応した施設設備を図る。

2-2 豊かな心と健やかな体を育成する安全な施設環境の実現(生活空間の充実)

児童・生徒が安心して有意義な学校生活が過ごせるよう、防犯や施設の安全など安全性に配慮した施設整備を図るとともに、障害の有無に関わらず安心して施設を利用できるようユニバーサルデザイン化を目指す。

また、豊かな人間関係づくりや情操の涵養、体力向上を推進するための空間作りを工夫する。

さらに、地球環境に配慮し、持続可能な社会の実現のため、断熱性能の向上、LED照明や人感センサー付き照明の導入、校内緑化の推進等を進める。

2-3 地域と共に歩む拠点としての施設整備(地域との連携の充実)

家庭、地域とのネットワークを形成し、学校教育活動を支えるPTA、学校サポートボランティア等の活動の場として位置づける。

また、児童の放課後の居場所、地域の生涯学習の場として、学校を利用することを考慮する。

さらに、地域の防災拠点、避難所としての役割を担う施設として整備を進める。

3 学校施設の実態

3-1 学校施設の配置状況

当町は、東西30.3km、南北29.5km総面積326.5㎢と広い。町面積の約41%が森林で地理的な条件もあり集落が点在しているため、町内の広範囲において小中学校が配置されていたが、幾度の統廃合を繰り返し現在に至っている。

平成17年の2町合併時は小学校7校（上北地区3校、東北地区4校）、中学校3校（上北地区1校、東北地区2校）であった。その後、平成27年度に東北中学校と東北東中学校が新東北中学校へ、平成29年度に上北第一小学校と小川原小学校が上北小学校へ、平成31年度に蛭沢小学校・千曳小学校及び水喰小学校が東北小学校へ統合された。

当面は現状の配置で推移していくものとしている。



図3-1 東北町の学校施設の配置状況

3-2 児童生徒数及び学級数の推移

表 3-1 小学校の児童数・学級数の推移（令和元年5月1日現在）

単位：学級・人

区 分		H17	H22	H27	H29	H30	R元	R2	R3	R4
上北小学校	学級数	15	14	13	15	15	14	14	14	15
	児童数	394	390	343	375	366	364	380	365	382
(第一小学校)	学級数	7	6	6	-	-	-	-	-	-
	児童数	74	64	50	-	-	-	-	-	-
(小川原小学校)	学級数	7	6	5	-	-	-	-	-	-
	児童数	79	58	35	-	-	-	-	-	-
甲地小学校	学級数	7	7	7	6	7	7	7	7	7
	児童数	99	119	107	92	92	85	76	72	70
東北小学校	学級数	-	-	-	-	-	13	12	12	12
	児童数	-	-	-	-	-	285	286	279	281
(蛭沢小学校)	学級数	13	12	13	11	11	-	-	-	-
	児童数	333	312	252	246	241	-	-	-	-
(千曳小学校)	学級数	6	6	4	4	5	-	-	-	-
	児童数	69	49	31	27	28	-	-	-	-
(水喰小学校)	学級数	7	6	4	3	3	-	-	-	-
	児童数	67	55	35	23	21	-	-	-	-
合 計	学級数	62	57	52	39	41	34	34	34	34
	児童数	1,115	1,047	853	763	748	734	742	716	733

※第一小と小川原小は平成28年度末で閉校。

※蛭沢小、千曳小と水喰小は平成30年度末で閉校となり平成31年度より東北小学校が開校。

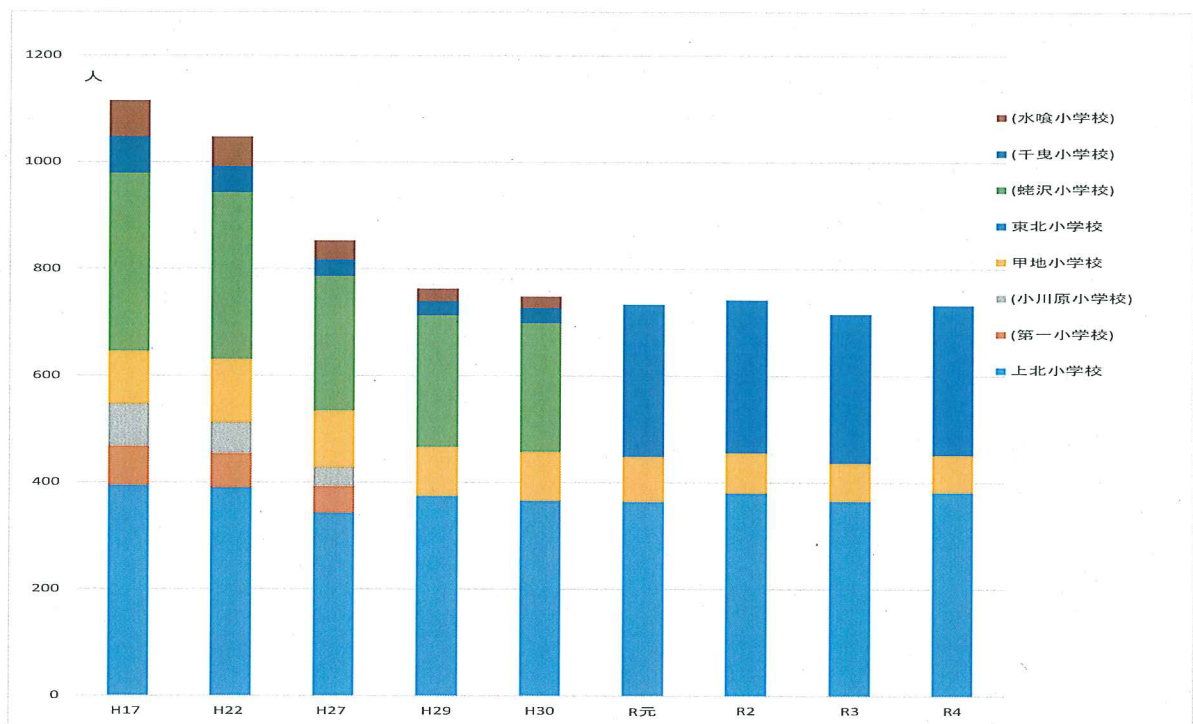


図 3-2 小学校全体の児童数の推移 (令和元年5月1日現在)

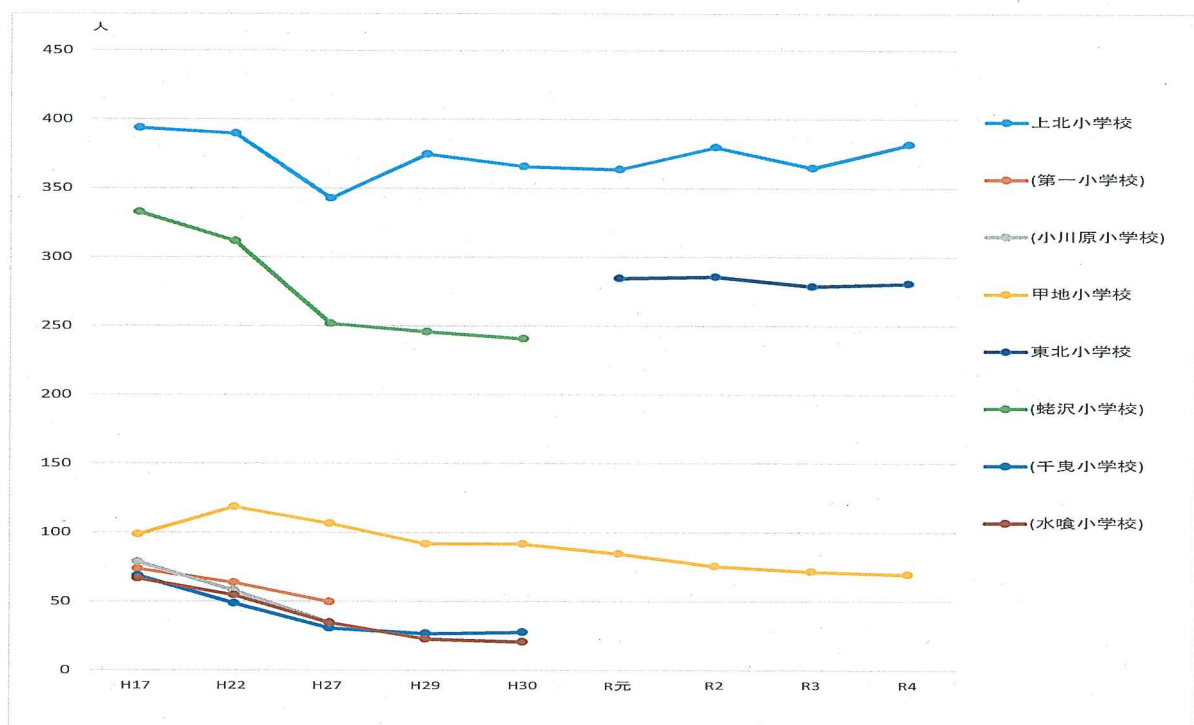


図 3-3 各小学校の児童数の推移 (令和元年5月1日現在)

2町合併時の平成17年から令和元年までの15年間で、381人の児童が減少となった。今後も児童数の減少により、学級数も減ることが予想され空き教室の利活用や廃校施設の利活用が課題である。

表 3-2 中学校の生徒数・学級数の推移（令和元年5月1日現在）

単位：学級・人

区 分		H17	H22	H27	H29	H30	R元	R2	R3	R4
上北中学校	学級数	12	11	7	8	8	8	7	7	7
	生徒数	315	271	243	232	228	204	181	190	188
東北中学校	学級数	-	-	8	7	6	8	8	8	9
	生徒数	-	-	256	220	208	204	204	206	184
(東北中学校)	学級数	8	8	-	-	-	-	-	-	-
	生徒数	227	216	-	-	-	-	-	-	-
(東北東中学校)	学級数	4	4	-	-	-	-	-	-	-
	生徒数	86	51	-	-	-	-	-	-	-
合 計	学級数	24	23	15	15	14	16	15	15	15
	生徒数	628	538	499	452	436	408	385	409	372

※東北中学校と東北東中学校は平成26年度末で閉校となり、平成27年度より東北中学校が開校。

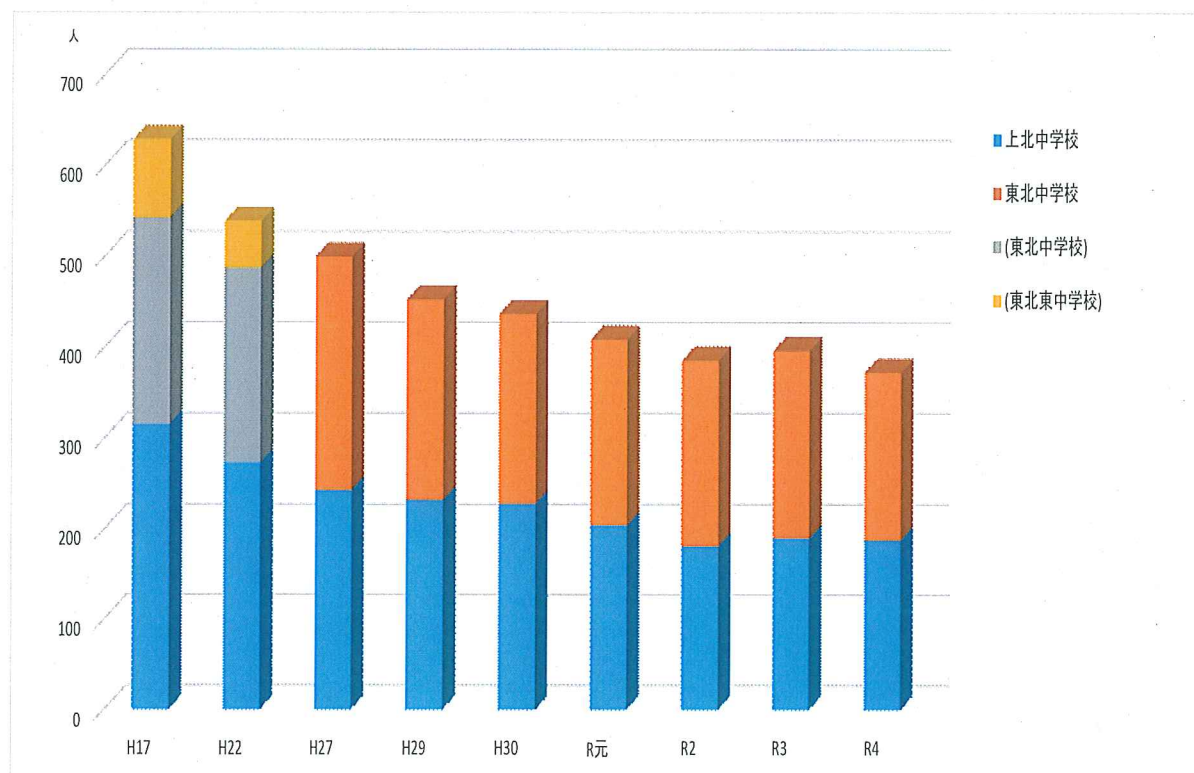


図 3-4 中学校全体の生徒数の推移（令和元年5月1日現在）

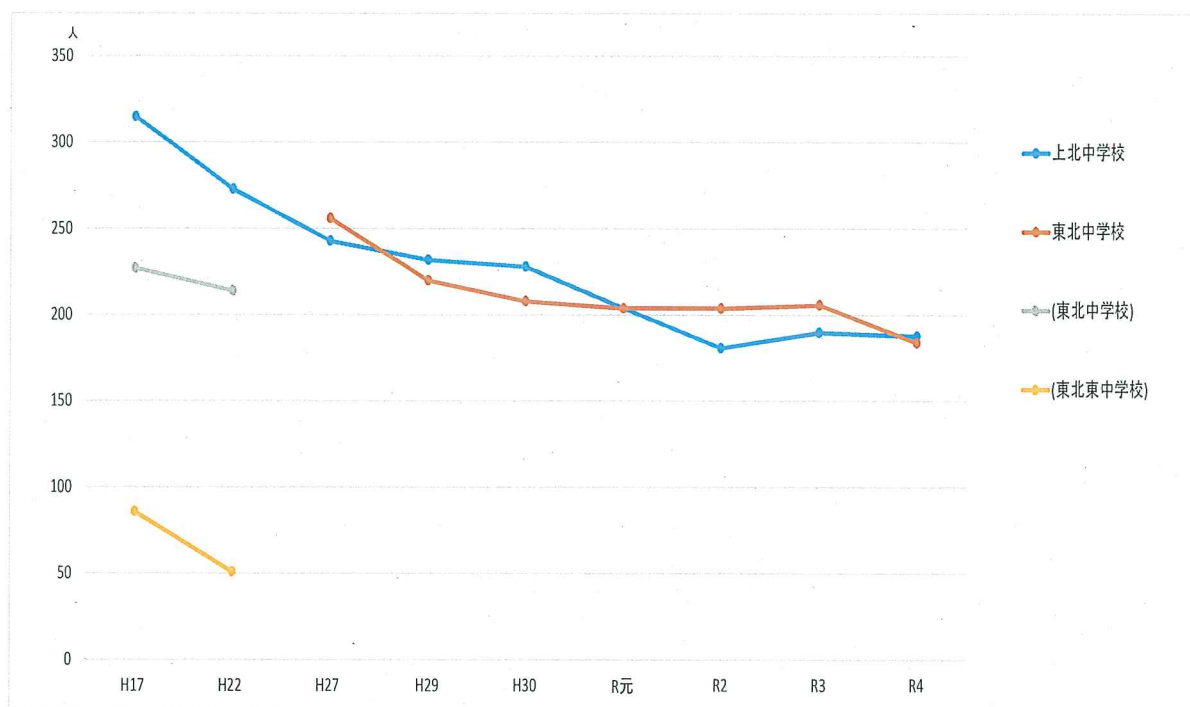


図 3-5 中学校の生徒数の推移（令和元年5月1日現在）

2町合併時の平成17年から令和元年までの15年間で、220人の生徒が減少となった。今後も生徒数の減少により、学級数も減ることが予想され空き教室の利活用が課題である。

表 3-3 各小学校の学年別児童数・学級数（令和元年5月1日現在）

単位：学級・人

学校名 \ 学年		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	合計
上北小学校	学級数	2	2	2	2	2	2	2	14
	児童数	51	60	59	58	72	56	8	364
甲地小学校	学級数	1	1	1	1	1	1	1	7
	児童数	17	14	5	15	14	19	1	85
東北小学校	学級数	2	1	2	1	2	2	3	13
	児童数	50	35	56	35	50	48	11	285
合計	学級数	5	4	5	4	5	5	6	34
	児童数	118	109	120	108	136	123	20	734

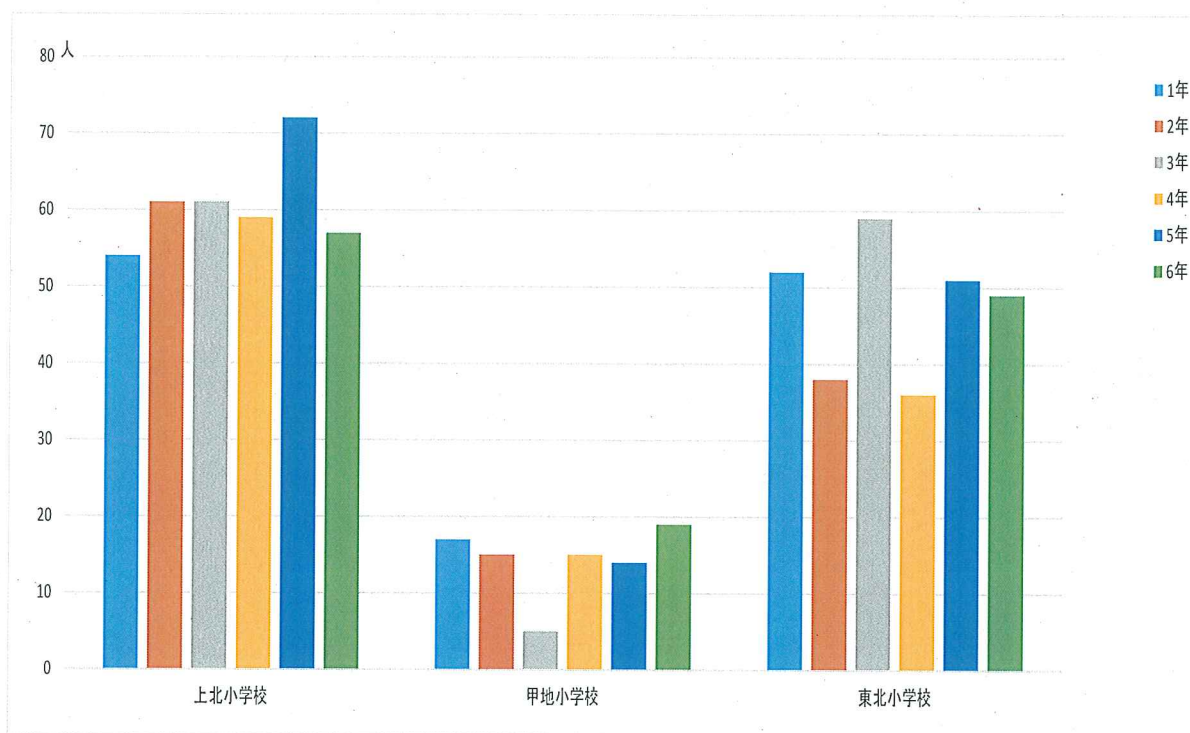


図 3-6 各小学校の学年別児童数（令和元年5月1日現在）

表 3-4 中学校の学年別生徒数・学級数（令和元年5月1日現在）

単位：学級・人

学校名 \ 学年		1 年	2 年	3 年	特別 支援	合 計
上北中学校	学級数	2	2	3	1	8
	生徒数	5 8	6 3	8 2	1	2 0 4
東北中学校	学級数	2	2	2	2	8
	生徒数	7 0	6 2	6 7	5	2 0 4
合 計	学級数	4	4	5	3	1 6
	生徒数	1 2 8	1 2 5	1 4 9	6	4 0 8

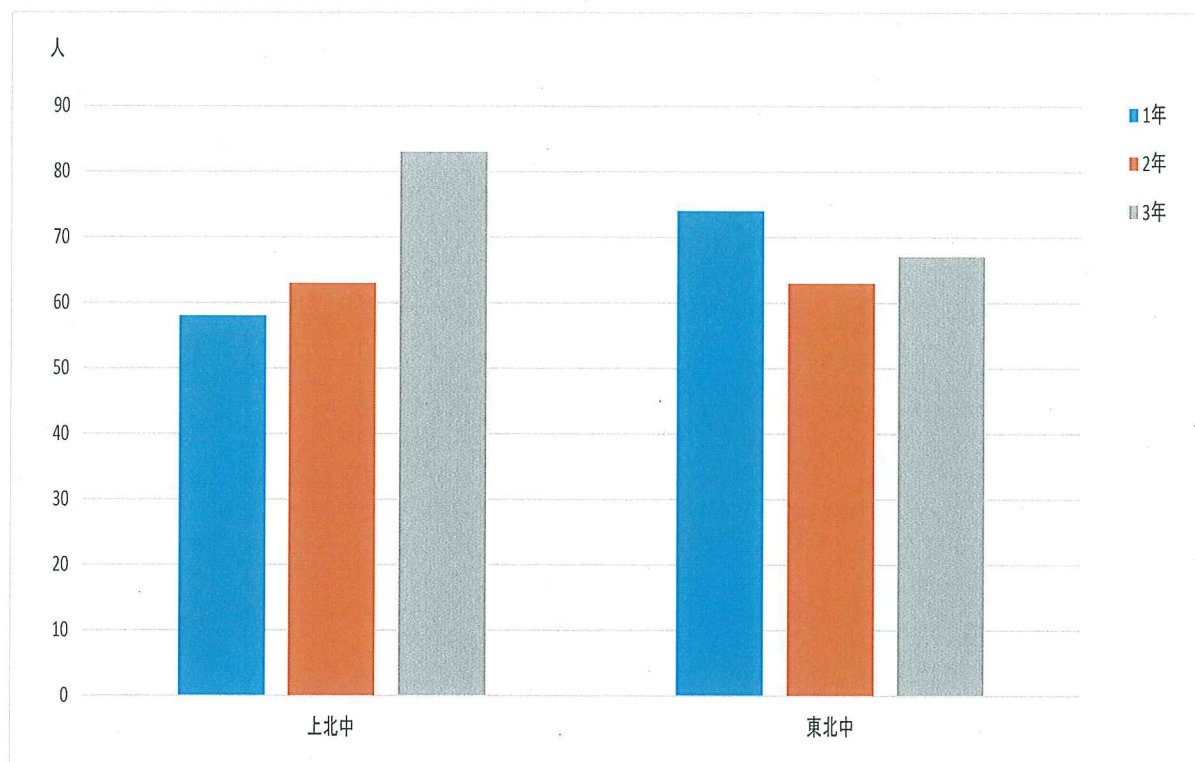


図 3-7 各中学校の学年別生徒数（令和元年5月1日現在）

3-3 学校施設の保有量

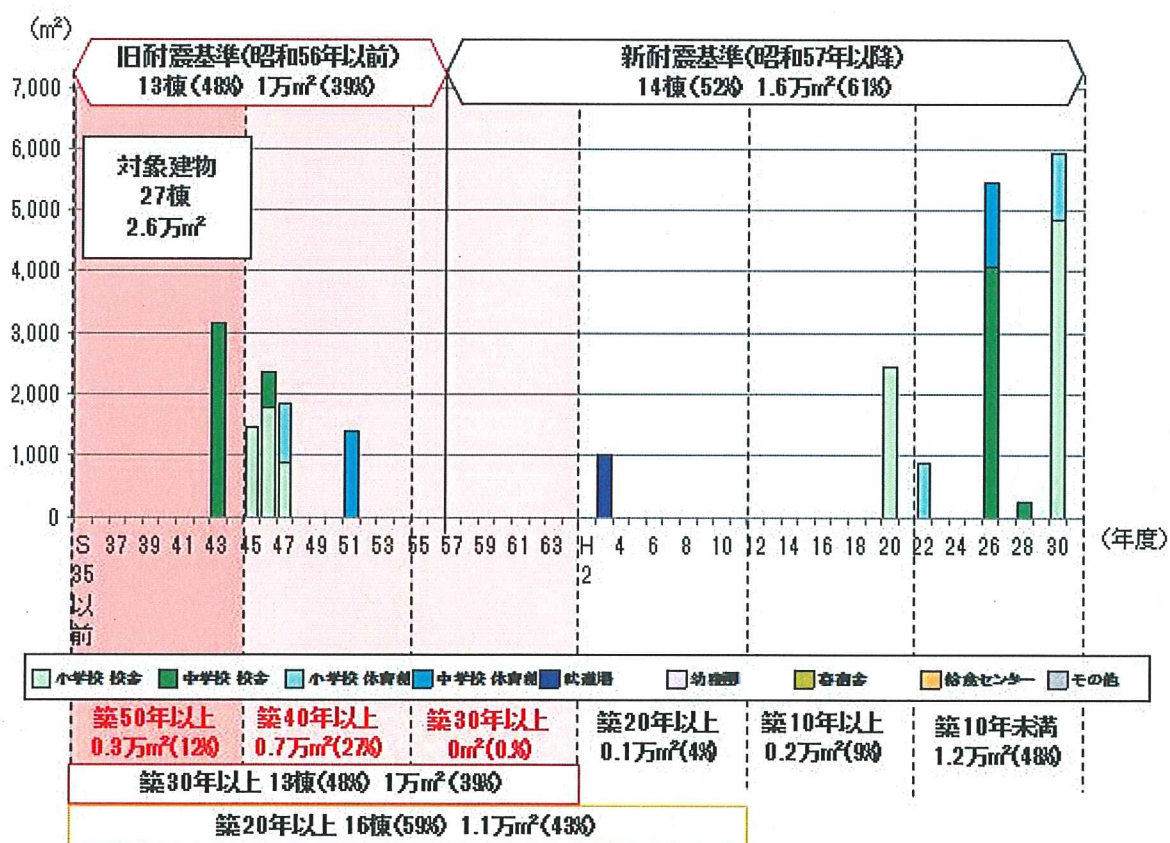


図 3-8 築年別整備状況

昭和56年以前（旧耐震基準）の学校施設は全体の39%を占めるが、学校施設の耐震化はすべて完了している。

築30年以上経過した学校施設は1万㎡で全体の39%であるが、上北中学校の屋内運動場を除いては改修済みである。

3-4 今後の維持・更新コスト（従来型）

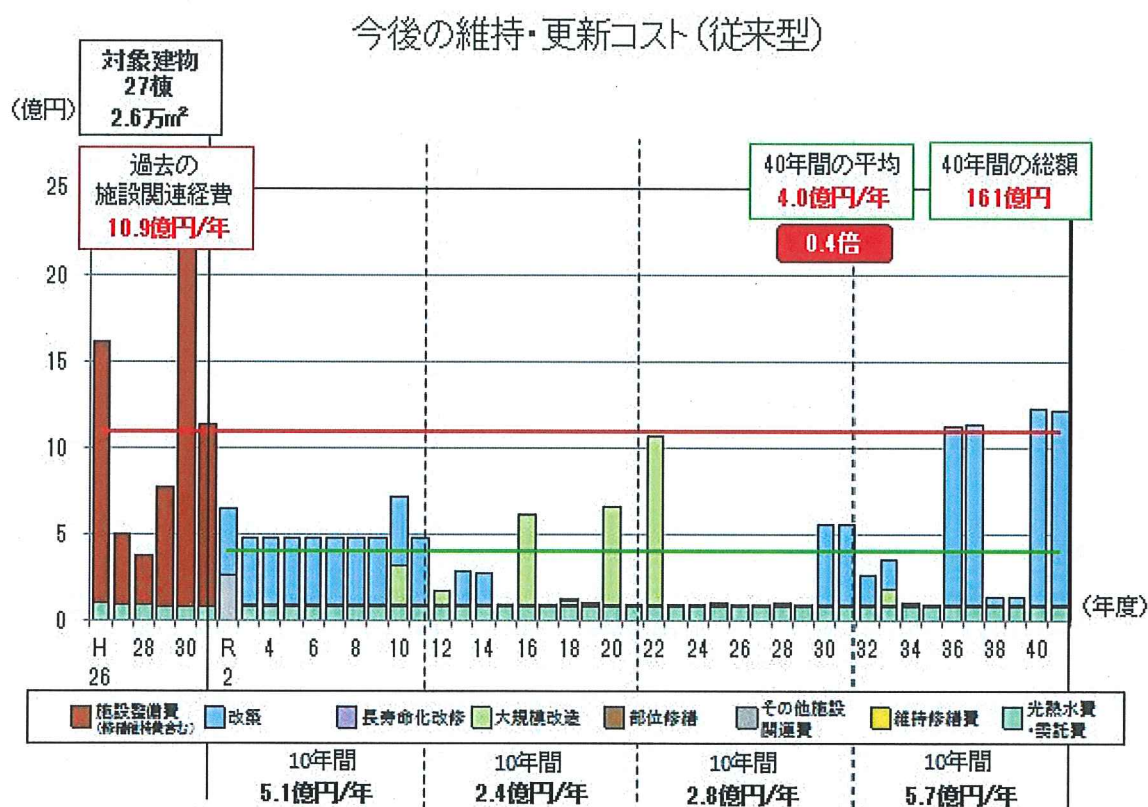


図3-9 今後の維持・更新コスト（従来型）

建築後20年で大規模改修を実施、建築後40年で改築（建て替え）という従来型の更新サイクルを続けると仮定して、今後の維持・更新コストを試算した。

建築後40年で改築（建て替え）する従来型の修繕・改修を続けた場合今後40年間のコストは161億円（年平均4.0億円）必要となる。これは直近5年間の投資的経費年平均10.9億円の0.4倍となっているが、これはこの期間に東北小学校・東北中学校の改築、上北小学校の統合改修が集中したたことによるものと、統廃合により学校数が減少したことによるものである。

3-5 学校施設の老朽化状況の実態

① 構造躯体の健全性の評価及び構造躯体以外の劣化状況の評価

構造躯体以外の劣化状況を比較し、屋根・屋上、外壁は目視状況により、内部仕上げ、電気設備、機械設備は部位の全面的な改修からの経過年数を基本にA、B、C、Dの4段階で評価した。

表 3-5 建物情報一覧表

P. 13～P. 14 参照

表 3-6 劣化状況評価結果

区 分	A	B	C	D	計
屋根・屋上	30	9	2	0	41
外壁	30	10	1	0	41
内部仕上	31	9	1	0	41
電気設備	39	2	0	0	41
機械設備	39	2	0	0	41
計	169	32	4	0	205
割 合	82.4%	15.6%	2.0%	0.0%	100.0%

A：概ね良好 B：部分的に劣化 C：広範囲に劣化 D：早急に対応する必要がある

Aが82.4%、BとCを合わせて17.6%という結果で、Aが8割以上を占めた。

これは、ここ10年で改修もしくは改築された建物が多いことによるもので、上北中学校の校舎、屋内運動場以外は、すべてA評価である。

② 今後の維持・更新コスト（長寿命化型）

改築（建て替え）中心から長寿命化改修に切り替えていくためには、計画的に機能向上と機能回復を図る修繕・改修を建物全体で実施する必要がある。

長寿命化型コストを試算するにあたり、P. 13～P. 14 の構造躯体の健全性判定で改築は「50年」、長寿命化は「80年」で更新周期を設定し、コスト試算を行った。

建物情報一覧表

A : 概ね良好 C : 広範囲に劣化
B : 部分的に劣化 D : 早急に対応する必要がある
■ : 築50年以上 ■ : 築30年以上 ■ : 基準 2019

建物基本情報

建物基本情報														構造躯体の健全性				劣化状況評価				備考		
通し 番号	学校 調査 番号	施設名	建物名	棟 番号	固定 資産 台帳 番号	用途区分		構造	階数	延床 面積 (㎡)	建築年度		築年 数	耐震安全性		長寿命化判定		屋根・ 屋上	外 壁	内 部 仕 上	電 気 設 備		機 械 設 備	健全度 (100点 満点)
						学校種 別	建物用 途				西 暦	和 暦			基準 診断	補強	調査 年度	圧縮 強度 (N/ mm)	試験上 の区分					
1	408	上北小学校	校舎北棟1	001	6144	小学校	校舎	RC	3	1,464	1970	S45	49		旧	済	-	H21	22.9	長寿命	A	A	A	100
2	408	上北小学校	校舎北棟2	002-1	6144	小学校	校舎	RC	3	734	1971	S46	48		旧	済	-	H21	22.9	長寿命	A	A	A	100
3	408	上北小学校	校舎昇降口棟	002-2	6144	小学校	校舎	RC	1	180	1971	S46	48		旧	済	-	H21	20.2	長寿命	A	A	A	100
4	408	上北小学校	校舎南棟1	002-3	6144	小学校	校舎	RC	3	859	1971	S46	48		旧	済	-	H21	23.2	長寿命	A	A	A	100
5	408	上北小学校	教材室	003		小学校	その他	RC	1	168	1971	S46	48		旧						A	A	A	100
6	408	上北小学校	校舎南棟2	005	6144	小学校	校舎	RC	3	889	1972	S47	47		旧	済	-	H21	23.2	長寿命	A	A	A	100
7	408	上北小学校	屋体	006-1	6146	小学校	体育館	RC	1	883	1972	S47	47		旧	済	-	H21	31.9	長寿命	A	A	A	100
8	408	上北小学校	屋体渡り廊下	006-2	6146	小学校	体育館	S	1	30	1972	S47	47		旧				長寿命		A	A	A	100
9	408	上北小学校	屋体機械室	007	6145	小学校	体育館	RC	1	40	1972	S47	47		旧				長寿命		A	A	A	100
10	408	上北小学校	屋外トイレ	016	6166	小学校	その他	W	1	17	1990	H2	29		新					B	B	A	A	81
11	408	上北小学校	倉庫(ｸﾞﾗﾝﾄﾞ)	017	6167	小学校	その他	W	1	116	1991	H3	28		新					B	B	A	A	81
12	409	甲地小学校	屋外トイレ	005	6174	小学校	その他	W	1	19	2001	H13	18		新					B	B	A	A	81
13	409	甲地小学校	校舎	006	6175	小学校	校舎	RC	2	2,433	2008	H20	11		新				長寿命	A	A	A	A	100
14	409	甲地小学校	倉庫	007	6176	小学校	その他	W	1	49	2009	H21	10		新					A	A	A	A	100
15	409	甲地小学校	渡り廊下	008	6178	小学校	体育館	RC	1	22	2010	H22	9		新				長寿命	A	A	A	A	100
16	409	甲地小学校	屋体	009	6178	小学校	体育館	RC	1	860	2010	H22	9		新				長寿命	A	A	A	A	100
17	410	東北小学校	倉庫	012		小学校	その他	W	1	88	2009	H21	10		新					A	A	A	A	100
18	410	東北小学校	校舎南棟	015		小学校	校舎	RC	2	2,624	2018	H30	1		新				長寿命	A	A	A	A	100
19	410	東北小学校	校舎西棟	016		小学校	校舎	RC	2	1,102	2018	H30	1		新				長寿命	A	A	A	A	100
20	410	東北小学校	校舎東棟	017		小学校	校舎	RC	2	1,117	2018	H30	1		新				長寿命	A	A	A	A	100
21	410	東北小学校	渡り廊下	018		小学校	体育館	S	1	25	2018	H30	1		新				長寿命	A	A	A	A	100
22	410	東北小学校	体育館	019		小学校	体育館	RC	1	1,059	2018	H30	1		新				長寿命	A	A	A	A	100
23	411	上北中学校	校舎(左)	003-1	6135	中学校	校舎	RC	3	1,952	1968	S43	51		旧	済		H12	15.8	長寿命	B	B	A	81
24	411	上北中学校	体育館	003-5	6137	中学校	体育館	RC	2	1,323	1976	S51	43		旧	済	-	H12	41.5	長寿命	C	C	B	49
25	411	上北中学校	機械室	003-6	6137	中学校	体育館	RC	1	53	1976	S51	43		旧				長寿命	B	B	B	B	75

A:概ね良好
C:広範囲に劣化
B:部分的に劣化
D:早急に対応する必要がある

14

今後の維持・更新コスト（長寿命化型）

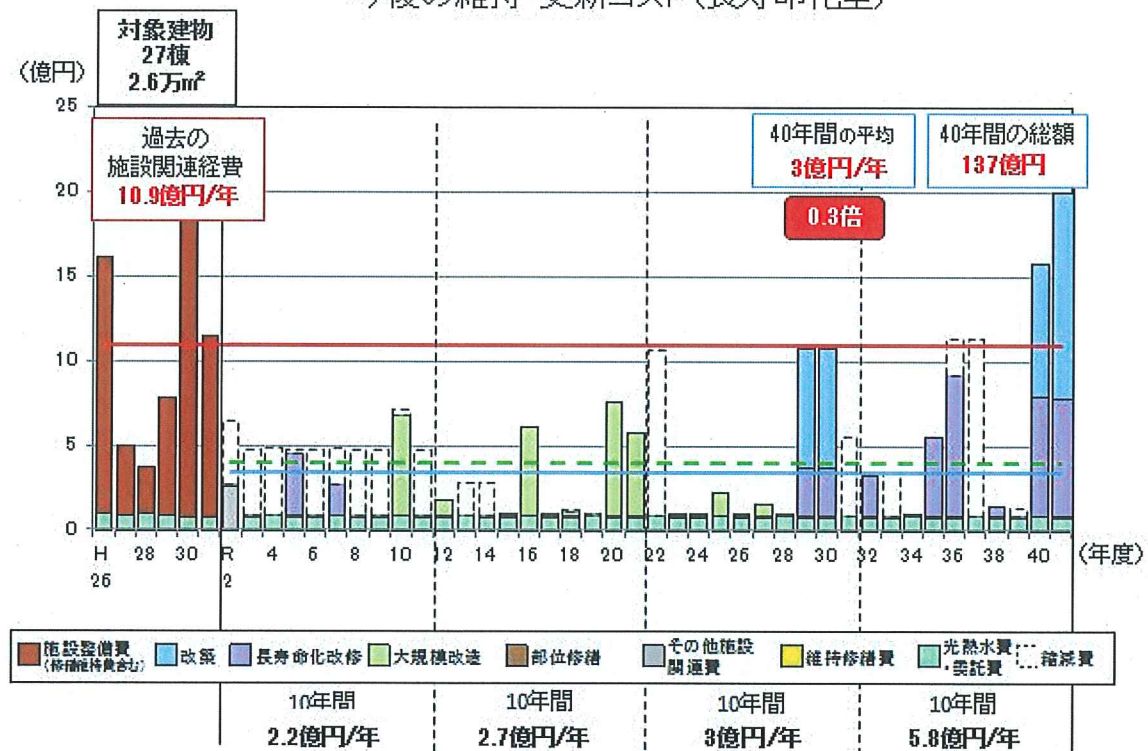


図 3 - 1 0 今後の維持・更新コスト（長寿命化型）

試算では、従来型から長寿命化型にシフトすることで、今後40年間の維持・更新コストは総額137億円となり、従来の改築（建て替え）中心の更新コスト161億円より24億円、約15%経費を削減することができる結果となった。

4 学校施設整備の基本的な方針等

4-1 学校施設の規模・配置計画等の方針

少子化による児童数の減少から、複式での学級編成となっている小学校があることから、学校の適正配置と教育環境の改善を図るため、平成26年7月に「東北町立小学校統合検討委員会」を設置し統合に係る検討を行った。その結果、「複式学級の解消など将来の教育環境を考えた場合、統合すべきである」との結論で一致し、平成29年4月に上北地区3小学校（小川原小学校・第一小学校・上北小学校）を上北小学校に、平成31年4月に東北地区3小学校（蛭沢小学校・千曳小学校・水喰小学校）を東北小学校に統合している。

中学校は、平成27年4月に東北地区2中学校（東北中学校と東北東中学校）を（新）東北中学校に統合している。

当町の全5校の小中学校は平成31年度までに統廃合計画が完了した配置となっており、統廃合により小学校では、複式での学級編成が解消され、また、中学校2校は当面各学年2学級を維持できることから、引き続き、現状を維持していくこととする。

4-2 改修等の基本的な方針

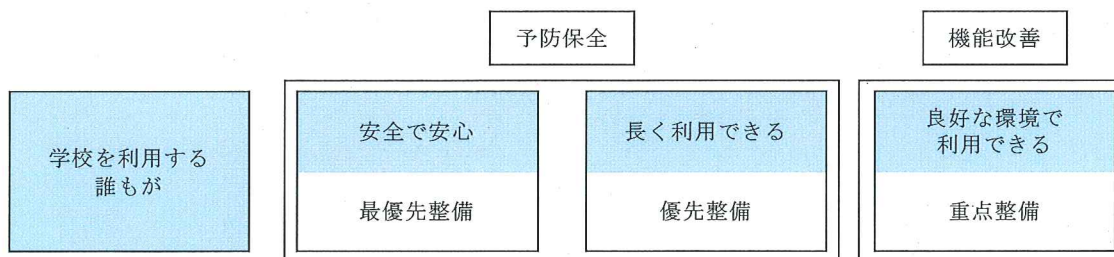
① 長寿命化の基本方針

長寿命化を実現するための改修計画は、整備優先度※に基づいて、作成する必要がある。そして、老朽化しているすべての学校施設を同様に整備するのではなく、老朽劣化度や危険性、改修の有効性等を勘案した整備優先度に基づき、計画的に実施していくことが重要である。また、近年建てられた学校施設においても、維持管理、更新を行うことにより、長く利用していくことも重要である。

※ 整備優先度とは、「学校を利用する誰もが、安全で安心なものとして、長く良く使っていける。」ことを目的としている。このことから、「安全で安心な施設」であることを最優先とし、「長く利用できる施設」とすることを優先的とする。また、「良好な環境で利用できる」ことについては、必要性や効果を勘案し重点的に整備を行うこととする。

安全で安心、長く利用できるについては、予防保全とし、良好な環境で利用できるものは、機能改善として分類する。

〔整備優先度〕



長寿命化事業は優先順位に基づき実施するが、環境への取り組み、今後の維持管理費の低減を考慮し、大規模改造等の計画立案においては、エコ対策の導入も検討する。

ア 安全で安心（最優先整備）

学校施設は、安全性の確保が特に重要であるが、現地調査の結果、特に緊急性を有するものはなかったが、今後は、事故防止対策などの緊急性を最優先に取り組むこととする。

イ 長く利用できる（優先整備）

今後、学校施設の老朽化が進行し、長寿命化対策が求められた場合は、長寿命化対策において重要となる外壁や屋上防水、配管、機器の更新等を行うことにより、既存の学校施設の長寿命化が図られるよう、優先して取り組むこととする。

ウ 良好な環境で利用できる（重点整備）

求められている規模、形態、能力、環境等と一致しないものが発生した場合は、必要に応じて既存の学校施設の機能改善等の改修を行う。

② 予防保全と機能改善

安全で安心（最優先整備）、長く利用できる（優先整備）、良好な環境で利用できる（重点整備）の3つの分類を「安全で安心」と「長く利用できる」を1つにまとめ『予防保全』、「良好な環境で利用できる」を『機能改善』とする。『予防保全』は、安全性（緊急性も含む）や現状維持を目的とし、『機能改善』は、現状よりも快適性、環境を向上させる目的として位置づける。

ア 予防保全

これまでの維持管理は、深刻な劣化、不具合など、問題が発生してから対応を行う事後保全の管理であったが、今後は予防保全の管理へ転換することが重要である。予防保全において最も重視されるのが点検である。定期点検や既存施設判定により、深刻な劣化、機能停止の兆候を事前に把握し、常に良好な状態を保つよう、施設の維持管理を行うものとする。

鉄筋コンクリート造建築物の劣化現象として、コンクリートの中性化、鉄筋腐食、コンクリートのひび割れ、漏水、コンクリートの強度劣化、大たわみ、表面劣化、凍害が挙げられる。これらの現象が生じないように、躯体の保護に関わる改修（外壁改修、屋上防水改修、配管取替等）を、重点的かつ計画的に行う。

建築は建物の外郭、電気は受変電設備と消防設備関係、機械は冷暖房機器と消防設備関係を重視する。

イ 機能改善

建築は環境の快適性を重視、電気は長寿命化や環境配慮、機械は今後の教育環境を重視する。

③ 目標使用年数

学校施設の長寿命化計画策定に係る手引では、「適正な維持管理がなされ、コンクリート及び鉄筋の強度が確保される場合には70～80年程度、さらに、技術的には100年以上持たせるような長寿命化も可能である」とされている。

詳細診断で長寿命化可能と判断された棟については、８０年を目標供用期間として設定する。

また、長寿命化が困難であると判断された棟については、原則６０年を目標供用期間とした対応を行う。

４－３ 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

① 改修等の整備水準

町ではこれまでも大規模改修、耐震改修の他、トイレ改修、屋上防水・外壁改修を進めるとともに、近年では空調設備を導入するなど、施設水準の維持・向上に努めてきた。

時代とともに施設に要求される性能は高まることから、大規模改修や建替え時には優先順位を設定し、効果的に施設水準の向上を図っていく。

② 維持管理の項目・手法等

電気工作物、消防用設備等の設備保守点検業務は業務委託により対応している。この業務委託においては、対象施設の巡回点検がなされ、点検時の簡易修繕や劣化・修繕必要箇所の抽出などが行われている。

引き続き、学校関係者や施設担当者による日常点検に加え、業務委託などを複層的に実施し、適正な維持管理に努めていく。

5 長寿命化等の実施計画

5-1 改修等の優先順位付けと実施計画

劣化状況評価による健全度から上北中学校の屋内運動場の改修等を最優先として行う必要があるが、工事順序・工事年度については別途実施する詳細診断を踏まえ、文部科学省の補助制度、児童生徒数の推移、合理的な工事範囲等を勘案しながら、東北町総合振興計画において決定する。

他の施設については、改築または改修等済みであることから、予防保全に務める。

5-2 長寿命化のコストの見通し、長寿命化の効果

P. 15に記載のとおり、従来型から長寿命化型にシフトすることで、コスト試算では、今後40年間で維持・更新コストは総額137億円（年平均3億円）となり、従来の改築（建て替え）中心の更新コスト161億円より24億円、約15%経費を削減できることから、長寿命化へシフトすることで一定の効果はあると言える。

当面は、現在の学校数で推移していくものと考えられるが、今後、更に児童生徒数が減少した場合は、学校施設の配置や規模、運営面等、多面的な見直しが必要である。

6 長寿命化等の継続的運用方針

6-1 情報基盤の整備と活用

今後、固定資産台帳及び施設管理台帳を活用し、学校施設の基本情報、光熱水費などの維持管理費、工事履歴や点検情報を一元管理していくものとする。

6-2 推進体制等の整備

学校施設長寿命化計画を継続的に運用していくために、学務課を中心に建設課、総務課の公共施設マネジメント担当と連携し、全庁的な体制で取り組んでいくものとする。

また、学校施設の維持管理については、学校管理員による日常点検や管理業務委託による各種点検報告書を活用して、不具合箇所の早期把握と修繕対応を図っていくものとする。

6-3 フォローアップ

本計画は、学校施設の改修や改築の優先順位を設定するものであり、東北町総合振興実施計画のなかで年次及び個別の事業費を精査していく。

また、事業の進捗状況、劣化調査などの結果を反映して本計画は見直しを図るものとする。